

第63回研究大会プログラム

会 場 弘前大学文京町キャンパス 総合教育棟

日 時 2016年9月16日(金)～18日(日)

9月	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
16日 金					受付	プロジェクト研究 (13:30～16:00)		会場校企画 (16:10～18:10)		全国理事会 18:30～ 若手研究者のつどい (18:30～)	
17日 土	受付	自由研究発表 (9:30～12:00)	昼食	自由研究発表 (13:00～15:00)		研究倫理研修会 (15:10～15:40) 特別企画 (15:45～17:15)	総 会 (17:20～ 18:30)		懇親会 (18:45～20:45)		
18日 日	受付	プロジェクト研究 (9:30～12:00)	昼食	ラウンドテーブル (13:00～15:30)							

- (1) 受付案内 ①会場案内は表紙裏、教室案内はP1をご参照下さい。 *敷地内禁煙
②受付設置場所・時間はつぎのとおりです。
1日目 13:00～ 総合教育棟 玄関ホール
2日目 9:00～ //
- (2) 参加費等 ①参加費 2,500円(当日3,000円)、学部生 1,000円(当日1,000円)
大学院生：会員 1,500円(当日2,000円、身分証提示)、非会員 2,500円
②懇親会費 4,000円(当日4,500円)、学部生・院生 2,500円(当日3,000円)
③昼食:9/18(日)弁当 500円(事前振込のみ) ※会場での当日販売はありません。
*16日(金)・17日(土)は大学生協食堂が利用できます。
*昨年度より参加費・懇親会費・弁当代の支払いは、同封の払込票による事前振込みが原則となりました。
- (3) 会場案内 ①大会本部 総合教育棟 313教室
②参加者控室 第1日 総合教育棟 404教室 第2～3日 総合教育棟 306教室
③理事会 総合教育棟 309教室
④若手研究者のつどい 総合教育棟 310教室
⑤総会 総合教育棟 401教室
⑥懇親会 スコラム(弘前大学生協食堂(大学会館2階))
- (4) 発表者は、当日配布資料がある場合、十分な部数(約50部)をご用意下さい。
会場でのコピーは出来ません。
- (5) 大会についてのお問い合わせやご連絡は下記にお願いします。

日本社会教育学会2016年度研究大会弘前大学事務局

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 弘前大学教育学部

大会実行委員長 大坪正一

大会事務局長 松本 大 Tel: 0172-39-3474 E-mail: dai@hirosaki-u.ac.jp

*緊急の場合はメールアドレスまでご連絡ください

後援 弘前大学生涯学習教育研究センター(会場校企画共催)

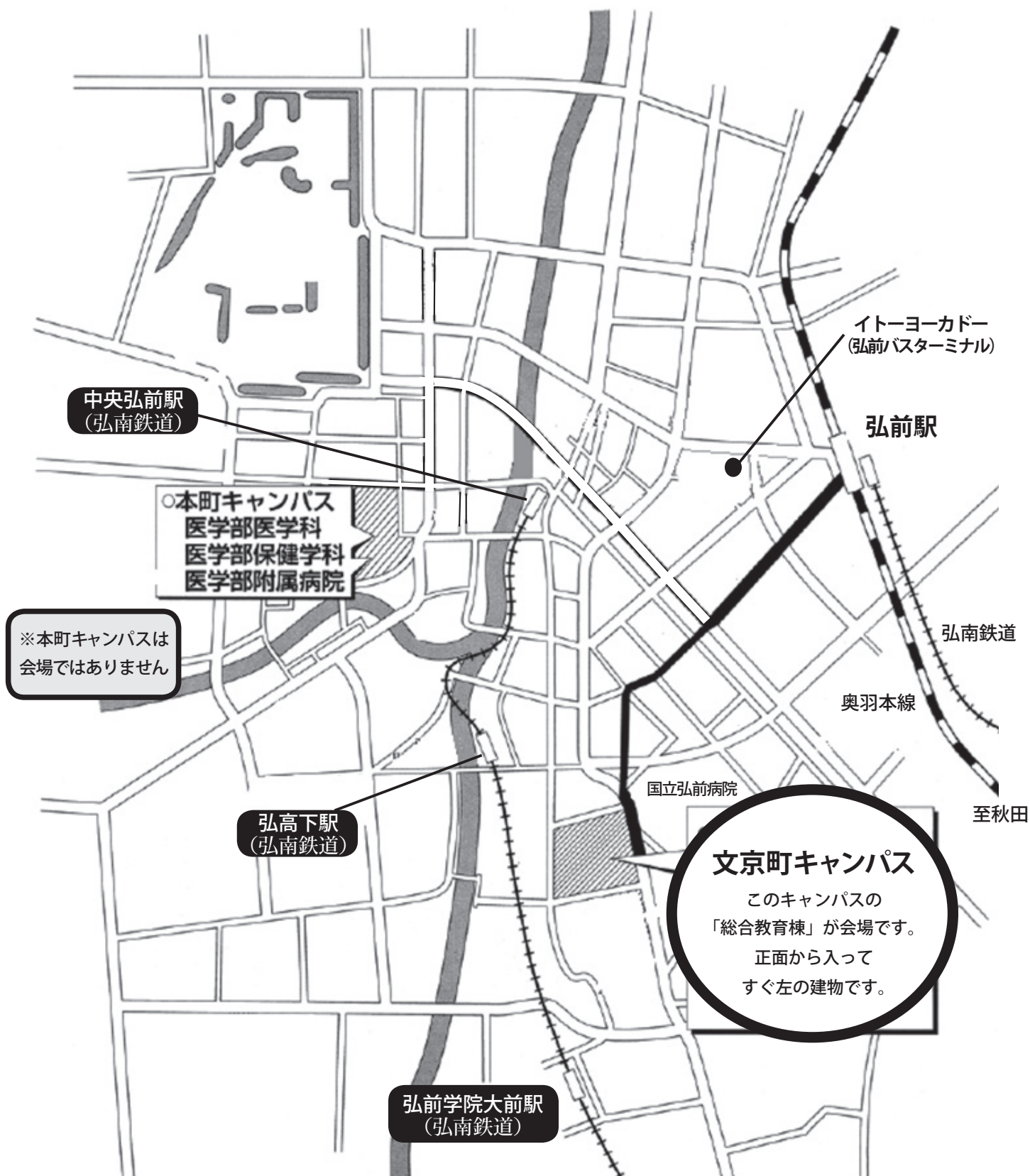
日本社会教育学会 <http://www.jssace.jp>

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F

(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852

E-mail: g029jssace-mng@ml.gakkai.ne.jp 振替 00150-1-87773

会場へのアクセス



○会場（文京町キャンパス）へのアクセス

JR弘前駅から

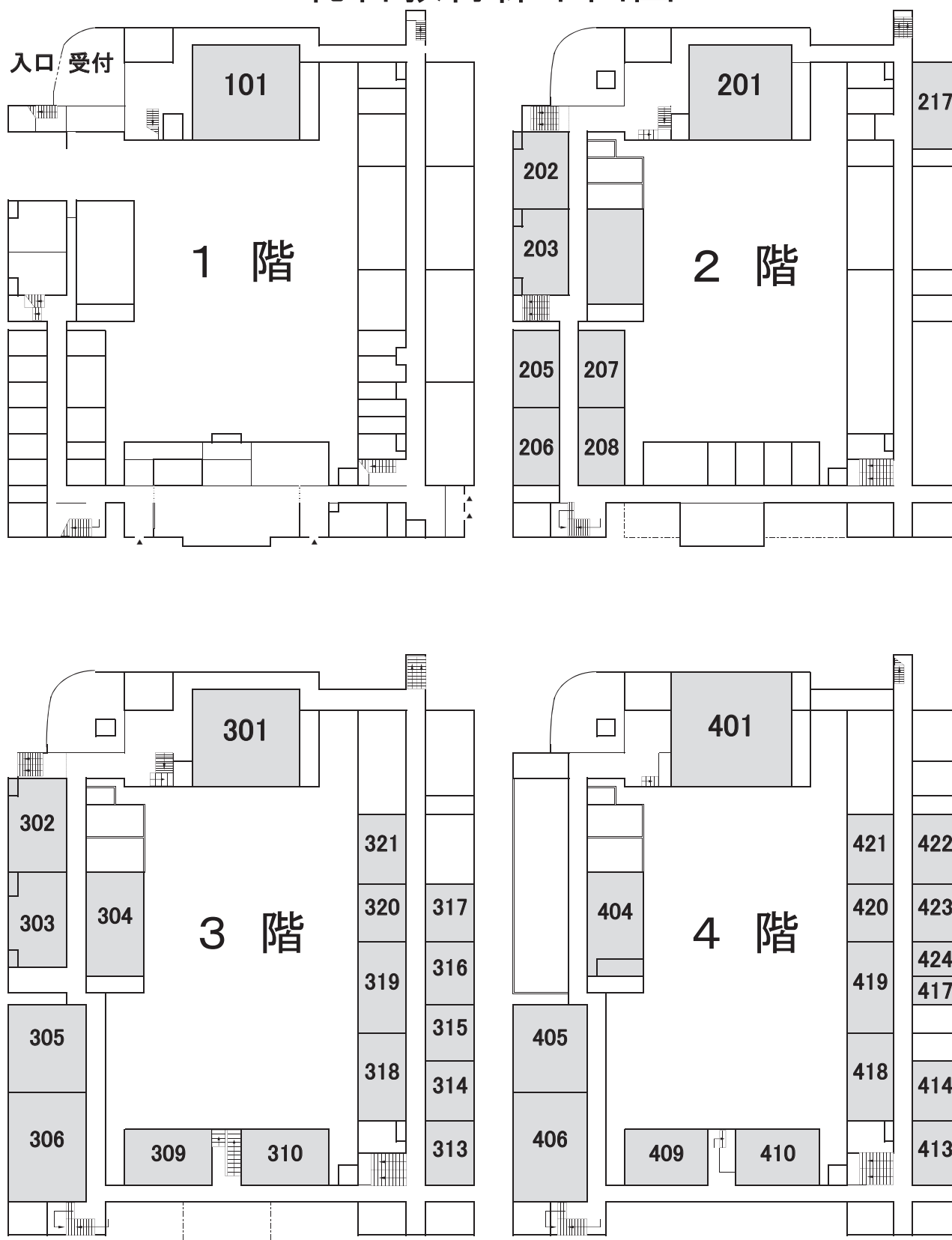
- ・タクシーを利用する場合（約5分）
- ・バスを利用する場合（約15分）

JR弘前駅前（中央口）【3番のりば】

→「小栗山・狼森線」または「学園町線」に乗車、【弘前大学前】で下車

配置図 1

総合教育棟平面図



プロジェクト研究

「地域づくりと社会教育」

13:30～16:00 総合教育棟 401教室

テーマ 「地域づくり政策モデルの検討」

司 会 柴田 彩千子(東京学芸大学)、上田 孝典(筑波大学)

報 告①「地域運営組織をめぐる今日的議論の検討」～『きらりよしじまネットワーク』をとおして～」
石井山 竜平(東北大学)

報 告②「高知県における『集落活動センター』設置による中山間地域支援策」
内田 純一(高知大学)

コメンテーター 岡 幸江(九州大学)、農中 至(鹿児島大学)

会場校企画

「地域づくりと大学開放」

16:10～18:10 総合教育棟 401教室

共催：弘前大学生涯学習教育研究センター

司 会 深作 拓郎(弘前大学)、藤田 公仁子(富山大学)

報 告① 坂本 徹(青森県総合社会教育センター)

報 告② 相馬 康稜(プロジェクトおおわに事業協同組合)

報 告③ 藤田 昇治(弘前大学)

全国理事会

18:30～ 総合教育棟 309教室

若手研究者のつどい

18:30～ 総合教育棟 310教室

自由研究発表 (共同研究は○印が登壇者)

9:30～15:00

第1室 午前

原理論・歴史

総合教育棟203教室

司会 宮崎 隆志 (北海道大学)

9:30～9:55 グラムシの教育思想

ー工場評議会と教育問題ー

黒沢 惟昭 (中国・東北師範大学名誉教授)

9:55～10:20 カナダのアンティゴニッシュ運動に見る Social Pedagogy のルーツ

藤村 好美 (群馬県立女子大学)

10:20～10:45 スウェーデンにおける Social pedagogik の歴史的 개념に関する研究

ー1900～1930年代を中心にー

松田 弥花 (東京大学大学院)

10:45～11:10 「市民力」の形成における「運動」の果たす役割に関する一考察

ー「シティズンシップ」概念の批判的検討をととして

金 宝藍 (東京大学大学院)

(討議 11:10～11:30)

第1室 午後

原理論・歴史

総合教育棟203教室

司会 朴木 佳緒留 (神戸大学名誉教授)

13:00～13:50 自己教育における時・空間の統合の研究

ーフィールド研究とライフヒストリーを結ぶもの

○前平泰志 (畿央大学)、生駒佳也 (徳島市立高校)、

○猿山隆子 (京都造形芸術大学)、○鏖純香 (京都大学)、

○飯田優美 (京都女子大学)

13:50～14:15 労働者の共通基礎教養としての労働安全衛生をめざして

ー大阪における労働安全衛生講習所の営為と歴史的意義ー

吉岡 いずみ (京都橘大学)

14:15～14:40 戦後復興期における青年教育の課題

ー越後妻有郷の生活改善運動と生活記録学習に着目してー

佐野 浩 (新潟経営大学)

(討議 14:40～15:00)

司 会 野 依 智 子（福岡女子大学）

9：30～9：55 上原専祿「主体性形成と学習」論研究（その11）

－「死者のメディアとしての生者の主体性」の発想論理－

片岡 弘勝（奈良教育大学）

9：55～10：20 新説・山名次郎『社会教育論』

佐藤 三三（弘前大学名誉教授）

10：20～10：45 同和教育運動の展開と地域社会

－1950年代京都市田中地区の分析を中心に－

生駒 佳也（徳島市立高校）

10：45～11：10 戦後地方文化運動の実証的研究（その1）

－「ふだん記」北九州グループ、「ふだん記」あいちグループを対象として－

川原 健太郎（早稲田大学）

（討議 11：10～11：30）

司 会 佐 藤 三 三（弘前大学名誉教授）

13：00～13：25 上郷国民学校における戦後の出発

－学校資料にみる新教育と「学校と家庭の連絡」への取り組み－

山梨 あや（慶應義塾大学）

13：25～13：50 浪江虔「農村図書館」構想の検討

坂内 夏子（早稲田大学）

13：50～14：15 江幡亀寿の教育思想と職業教育

－「公民道德」としての勤労に着目して

倉知 典弘（吉備国際大学）

14：15～14：40 前田正名と石川理紀之助の農村振興実践からの社会教育論

－明治後期の宮崎県諸県郡山田村の事例から－

神田 嘉延（鹿児島大学名誉教授）

（討議 14：40～15：00）

司 会 野 村 卓（北海道教育大学）

9：30～10：10 社会教育行政の歴史的研究(その2)

－ 1960年から1978年までの東京都の社会教育行政を中心に

○梶野光信（東京都）、○渡辺美穂（国立女性教育会館）、
廣瀬隆人（北海道教育大学釧路校）、矢口徹也（早稲
田大学）、新井浩子（早稲田大学非常勤）、木村友香（早
稲田大学大学院）

10：10～10：50 戦後地域社会教育と農業改良普及事業との協働に関する研究(1)

－主に1970年代までの生活改善と青少年教育における協働について－

○安藤耕己（山形大学）、藤田美佳（奈良教育大学）、
松本 大（弘前大学）、○竹淵真由（下諏訪町教育委員会）

10：50～11：15 戦後産炭地社会教育の展開と解体・再生に関する歴史的研究

－ 1950・60年代の筑豊地域の検討を中心に－

農中 至（鹿児島大学）

（討議 11：15～11：35）

司 会 安 藤 耕 己（山形大学）

13：00～13：25 中華民国時期における「童子軍」運動の展開と教育関係団体との関わりについて

－1915年から1925年まで－

孫 佳茹（早稲田大学）

13：25～13：50 戦前期における中等教育段階の講義録についての一考察

関本 仁（中央大学）

13：50～14：15 戦時期地方文化運動の状況に関する研究

－鴨川文化協会の分析を中心として－

大蔵 真由美（東海学院大学短期大学部）

14：15～14：40 近代日本の聾啞運動にみる「教育」と「福祉」の論理構造

－藤本敏史(1893-1976)の当事者運動論から－

池田 法子（京都大学大学院）

（討議 14：40～15：00）

司 会 大 坂 祐 二（名寄市立大学）

9：30～9：55 労働の意味づけに関する一考察

—古代から近代にいたる労働思想史の検討を通して—

西川 昇吾（東京大学大学院）

9：55～10：20 青年団講習所の実像

—その人間形成の思想と教育実践—

上原 直人（名古屋工業大学）

10：20～10：45 青年期に求められる自立に関する史的考察

大山 宏（東京大学大学院）

10：45～11：10 日独戦後社会教育史比較研究における社会教育問題

大串 隆吉（首都大学東京名誉教授）

（討議 11：10～11：30）

司 会 武 田 るい子（清泉女学院短期大学）

9：30～9：55 中国の都市部における老年学校に関する研究

—浙江省寧波市白雲老年学校の事例を通して—

王 倩然（名古屋大学）

9：55～10：45 被差別部落の識字学級をめぐる動向と課題

～大阪府内識字学級実態調査（2015年度）より～

○森実（大阪教育大学）、上杉孝實（京都大学）、

岩槻知也（京都女子大学）、○棚田洋平（一般社団法人部落解放・人権研究所）、○菅原智恵美（大阪市立大学大学院）

10：45～11：10 戦後高齢者教育の創設期における高齢者の学習

—犬山としより学校の事例を中心として—

久保田 治助（鹿児島大学）

11：10～11：35 外国人移民者の高齢化と介護問題

—オーストラリアシドニーを事例として—

朴 賢淑（岩手大学）

（討議 11：35～11：55）

司 会 阿久澤 麻理子（大阪市立大学）

13:00～13:25 子どもの母語を活用した教科学習支援における教員・支援者の学び
—公立中学校国際教室の事例から—

高梨 宏子（東海大学）

13:25～13:50 結婚移住女性に対する韓国語教育における隠れたカリキュラム
—『結婚移民者と共にこなう韓国語』教材の分析を通して—

藤田 美佳（奈良教育大学）

13:50～14:15 知的障害者の自立を支援する親の学習と変容に関する一考察
—手をつなぐ親の会参加者を事例に—

橋田 慈子（筑波大学大学院）

14:15～14:40 韓国における女性結婚移民者の社会適応のための学習の意義と役割
権 貞恩（名古屋大学大学院）

（討議 14:40～15:00）

司 会 内 田 和 浩（北海学園大学）

9:30～9:55 ユース育成プログラムにおける実践家参加型評価の試み

中村 みどり（立教女学院短期大学）

9:55～10:20 ユースワーカーとしての社会教育指導員の専門性に関する考察

吉野 友二（板橋区立大原社会教育会館）

10:20～10:45 社会教育主事講習に対する「9単位社会教育主事」の意識に関する考察

浅野 秀重（金沢大学）

10:45～11:35 地方自治体における社会教育主事資格の活用に関する研究

—一都三県を対象とした社養協調査から—

○田中雅文（日本女子大学）、入江直子（神奈川大学）、

○井口啓太郎（国立市公民館）、中村 香（玉川大学）、

○倉持伸江（東京学芸大学）、坪内 一（横浜市）

（討議 11:35～11:55）

司 会 牧 野 篤（東京大学）

13:00～13:25 諸外国における認知症高齢者への学習支援に関する先行研究の検討

鈴木 尚子（徳島大学）

13:25～14:05 都市型中間施設の効果と課題

～「のびやかスペースあーち」10周年調査から～

○津田英二（神戸大学）、○稲本恵子（大阪観光大学）

14:05～14:30 高齢期における、アガサ・クリスティの作品の円熟について

—オールドエイジ・スタイル論とSOC理論を手がかりに—

堀 薫夫（大阪教育大学）

（討議 14:30～14:50）

司 会 小 林 繁（明治大学）

9:30～9:55 大学の地域貢献型生涯学習体系に関する研究（2）

～「まなびの郷KOKO塾」を事例に～

村田 和子（和歌山大学）

9:55～10:20 大学博物館における学術資料の活用と主体的な学び

—実物教授に関する一考察—

山本 桃子（早稲田大学大学院）

10:20～10:45 大学と地域の連携・協働とサービスラーニング

斉藤 雅洋（高知大学）

10:45～11:10 地域住民の学習活動とその成果活用を図る大学開放プログラム

藤田昇治（弘前大学）、○藤田公仁子（富山大学）

（討議 11:10～11:30）

司 会 堀 本 麻由子（東海大学）

13:00～13:25 身体を通じた対話における認識変容：身体障害をもつ成人の「語り」の検討から

正木 遥香（広島大学大学院）

13:25～13:50 台湾の社区大学による市民社会形成の特質

—台北市社区大学3課程の学習者へのインタビューから—

山口 香苗（東京大学大学院）

13:50～14:15 人権保障としての障害者社会教育をめぐる課題

—千葉県障害者青年学級を事例に—

大塚 みのり（千葉大学大学院）

14:15～14:40 共感的学習の成立条件

—韓国のクムサンガンジー代案学校の「転換教育」実践に着目して—

宋 美蘭（北海道大学）

（討議 14:40～15:00）

司 会 矢 口 悦 子（東洋大学）

9:30～9:55 女性のエンパワーメントと地域づくり

—起業活動の事例をもとにした考察

飯島 絵理（東北大学大学院）

9:55～10:20 青年の伝統芸能継承にみる地域社会で生きる形の模索に関する研究

池水 聖子（（一財）鹿児島県青年会館）

10:20～10:45 子育て支援における地域内実践団体間の学習と連帯

榊 ひとみ（函館短期大学）

10:45～11:10 移住した若者の地域住民との交流とアイデンティティの形成

内田 弘（北海道大学大学院）

11:10～11:35 新潟県十日町市飛渡地区公民館における地域づくり学習の意義

～1970年代からの展開に注目して～

吉田 弥生（北海道大学大学院）

（討議 11:35～11:55）

司 会 高 雄 綾 子（フェリス女学院大学）

13:00～13:25 グループ電話を用いた高齢者インプロ（即興演劇）実践におけるファシリテーターの支援と課題：カリフォルニア州オークランド「Senior Center Without Walls」の取り組みから

園部 友里恵（三重大学）

13:25～13:50 被災地における学コミを活用した防災教育についての一考察

菅原 友子（仙台市教育委員会）

13:50～14:15 IPE基盤型専門職教育プログラムの開発プロセスと課題

渡邊 洋子（京都大学）

14:15～14:40 RCE／ESDの推進過程における学生コーディネーターグループ組織化の意義

○清野未恵子（神戸大学）、松岡廣路（神戸大学）

（討議 14:40～15:00）

司 会 内 田 純 一（高知大学）

9:30～10:20 地域変動と社会教育（その2）

○岡幸江（九州大学）、○上野景三（佐賀大学）、

○山城千秋（熊本大学）、○植上一希（福岡大学）、

○恒吉紀寿（北九州市立大学）、○長尾秀吉（別府大学）、

○金子満（鹿児島大学）

10:20～10:45 天城町〈社会教育行政職員〉の職場の実態と力量形成の難しさ

—3年間の教育行政改革ワークショップから見えてきたこと—

小栗 有子（鹿児島大学）

10:45～11:10 法律専門職と市民の協働にみる課題と可能性

—裁判員制度に注目して—

種村 文孝（京都大学大学院）

11:10～11:35 地方行政との協働に向けた財政白書作り運動の意義と可能性

石山 雄貴（東京農工大学大学院）

（討議 11:35～11:55）

司 会 田 所 祐 史（京都府立大学）

13:00～13:25 博物館における「対話」による記憶「継承」活動の社会教育的意義と課題

君塚 仁彦（東京学芸大学）

13:25～13:50 金沢市の善隣館と公民館の現状にみる教育と福祉の関係

大村 隆史（名古屋大学大学院）

13:50～14:15 アメリカ合衆国におけるミュージアムと高齢者の互恵的關係

瀧端 真理子（追手門学院大学）

14:15～14:40 埼玉県における移動図書館実態調査の予備的考察

石川 敬史（十文字学園女子大学）

（討議 14:40～15:00）

司 会 榎 石 多希子（仙台白百合女子大学）

9:30～9:55 沖縄における子どもの貧困問題と大学の地域貢献

—子どもの居場所学生ボランティアセンターの設立と機能—

嘉納 英明（名桜大学）

9:55～10:20 社会関係資本の構築に関する理論的検討

—市民社会組織に注目して—

○荻野 亮吾（東京大学）、中村由香（東京大学大学院）

10:20～10:45 災害復興におけるレジリエンスのための教育に関する研究

—豪雨災害の被災地NPOの支援活動を事例に—

秦 範子（都留文科大学）

10:45～11:10 フリースクール設立に至る経緯と運営継続の要因

—複線径路・等至性モデル（TEM）による分析—

橋本 あかね（大阪府立大学大学院）

11:10～11:35 NPOはどのようにスタッフを育てているか？

—震災後の福島における若者支援NPOの事例より—

滝口 克典（ぷらっとほーむ）

（討議 11:35～11:55）

司 会 新 藤 浩 伸（東京大学）

13:00～13:25 平和学習の内容編成における循環型の生業の位置と意味

－高知県幡多地域の取り組みを例に

阿知良 洋平（室蘭工業大学）

13:25～14:05 平和博物館の実践的展開可能性の検討:

アウシュヴィッツ平和博物館の実践に着目して

○萩原達也（東京大学大学院）、○栗山究（法政大学）

14:05～14:30 国際博覧会への市民参加と教育的機能について

松田 剛史（北海道大学大学院）

（討議 14:30～14:50）

司 会 河 野 和 枝（北翔大学）

9:30～9:55 韓国の共同育児に対する母親たちの意識の考察

－ソウル市育児プマシ団体に所属する母親に着目して－

松尾 有美（東京大学大学院）

9:55～10:20 地方の若者の地域移動とキャリア選択

廣森 直子（青森県立保健大学）

10:20～10:45 生活困難層の就学前の子育てにおける現代的課題

－B市A団地における保護者調査より

井上 大樹（札幌学院大学）

10:45～11:10 アンケート調査の結果からみる今日の通信制高校教育の現状と課題

西村 貴之（北翔大学）

（討議 11:10～11:30）

司 会 笹 井 宏 益 (国立教育政策研究所)

13:00～13:25 学校と地域社会の連携(1)

～少子高齢化の中で学校の地域づくり機能を問い直す(宮崎県都城市の事例から)～

植村 秀人 (南九州大学)

13:25～13:50 学生と地域住民の相互的学びに関する研究

—フレイレの意識化を応用したフォーラムシアターの手法を高齢化団地で用いた事例を通して—

石野 由香里 (早稲田大学)

13:50～14:15 社会教育学研究におけるエコミュージアム・地元学

蜂屋 大八 (金沢大学)

14:15～14:40 芸術文化活動からみた学校と地域の再編・連携の様相

—合併地区における学校統廃合の動きを踏まえて—

○丹間康仁 (帝京大学)、大蔵真由美 (東海学院大学短期大学部)、竹井沙織 (宇都宮大学)、大村隆史 (名古屋大学大学院)

(討議 14:40～15:00)

司 会 鈴 木 敏 正 (北海道文教大学)

9:30～9:55 地域をつくる学びとしての環境運動の展開と役割

—野外コウノトリを観察し見守る市民グループを事例として

田開 寛太郎 (東京農工大学大学院)

9:55～10:20 社会—生態システムと学習者のレジリアンスに対する評価基準構築

～大学におけるESDの視点から

二ノ宮リム さち (東海大学)

10:20～11:00 <開発と教育>研究の基本問題；下北半島調査を通して考える

○安藤聡彦 (埼玉大学)、○古里貴士 (東海大学)

(討議 11:00～11:20)

司 会 降 旗 信 一（東京農工大学）

13：00～13：25 災害とジェンダーをめぐる課題：ネパール大地震からの復興に向けて
長岡 智寿子（国立教育政策研究所）

13：25～13：50 イギリスの博物館における教育実践
—教員に向けた取り組みを手がかりとして—
永田 祥子（広島大学）

13：50～14：15 負の伝統の忘却を乗り越えて
～宮崎県高千穂の土呂久鉦害に学ぶ～
岩佐 礼子（東京大学）

14：15～14：40 先住民族の知恵を活かす防災教育
—北海道におけるアイヌ民族の事例を中心に—
野元 弘幸（首都大学東京）

（討議 14：40～15：00）

研究倫理研修会

15:10~15:40 総合教育棟 401教室

特別企画

「社会教育主事講習の見直しについて（その2）」

15:45~17:15 総合教育棟 401教室

司 会 田 中 雅 文（日本女子大学）

報告① 浅野 秀重（金沢大学）

報告② 岡 幸江（九州大学）

総 会

17:20~18:30 総合教育棟 401教室

懇 親 会

18:45~20:45 スコラーム（弘前大学生協食堂（大学会館2階））

プロジェクト研究 <第1室>

「学びあうコミュニティを支えるコーディネーターの力量形成とその組織」

9:30～12:00 総合教育棟 401教室

テーマ 「学びあうコミュニティを支えるコーディネーターの力量形成サイクルの創造」

司 会 中村 香（玉川大学）、柳沢 昌一（福井大学）

報 告①「社会教育主事の力量形成をめぐる制度と課題」

内田 和浩（北海学園大学）

②「社会教育職員から見たコーディネーターの力量形成」

井口 啓太郎（国立市公民館）

③「コーディネーター養成カリキュラムとその組織」

村田 晶子（早稲田大学）

コメンテーター 松田 武雄（名古屋大学）

プロジェクト研究 <第2室>

「子ども・若者支援専門職の必要性和資質に関する研究」

9:30～12:00 総合教育棟 301教室

テーマ 「子ども・若者支援に関する専門職をめぐる問題状況と課題（6）

—子ども・若者支援専門職の専門性と養成・研修システム— 」

司 会 宮崎 隆志（北海道大学）、川野 麻衣子（奈良教育大学）

報 告①「子ども・若者支援専門職に関わる本研究プロジェクトの経緯と到達点

—“第三の領域”の検討と関連して— 」

生田 周二（奈良教育大学）

②「子ども・若者支援専門職の専門性と養成・研修システムについて

—若者施設関係職員の専門性の検討を通して— 」

水野 篤夫（京都市ユースサービス協会）

松田 考（さっぽろ青少年女性活動協会）

七澤 淳子（よこはまユース）

辻 幸志（こうべユースネット）

コメンテーター 高橋 満（東北大学）、大村 恵（愛知教育大学）

ラウンドテーブル

13:00~15:30

ラウンドテーブル①

総合教育棟409教室

テーマ 「多様な学びを保障する代案教育・学校の日韓比較（その1）」

コーディネーター 宋 美蘭（北海道大学専門研究員）、吉岡 亜希子（北海学園大学非常勤）

若原 幸範（稚内北星学園大学）

報告 吉岡 亜希子（北海学園大学非常勤）、宋 美蘭（北海道大学専門研究員）

阿知良 洋平（室蘭工業大学）、朴 志淑（ソウル大学校博士課程）

ラウンドテーブル②

総合教育棟205教室

テーマ 「個人所有資料の保存活用と世代間継承を考える」

コーディネーター 瀧端 真理子（追手門学院大学）

報告 瀧端 真理子（追手門学院大学）、北原 かな子（青森中央学院大学）

谷合 佳代子（大阪産業労働資料館エル・ライブラリー）

ラウンドテーブル③

総合教育棟206教室

テーマ 「労働の主体性を考える その5 : 非正規職シングル女性の抱える課題」

コーディネーター 廣森 直子（青森県立保健大学）

報告 野依 智子（福岡女子大学）

ラウンドテーブル④

総合教育棟207教室

テーマ 「InterProfessionalな学びの意義と可能性」

コーディネーター 渡邊 洋子（京都大学）、種村 文孝（京都大学大学院）

報告 奥蘭 淳二（海上保安大学校）、佐伯 知子（大阪総合保育大学）

ラウンドテーブル⑤

総合教育棟208教室

テーマ 「躍動する韓国の生涯学習（平生教育）ー市民・地域・学び」

コーディネーター 李 正連（東京大学）

報告 金 宝藍（東京大学大学院）

松尾 有美（東京大学大学院）、小田切 督剛（韓国生涯学習研究フォーラム）

ラウンドテーブル⑥**総合教育棟305教室**

テーマ 「SDGs（持続可能な開発目標）と社会教育」

コーディネーター 田中 治彦（上智大学）

報告 三宅 隆史（シャンティ国際ボランティア会）、荻野 亮吾（東京大学）

ラウンドテーブル⑦**総合教育棟309教室**

テーマ 「子どもにかかわる大人の学び—子ども・子育て新制度による非営利組織の機能拡大と課題」

コーディネーター 河野 和枝（北星学園大学）、井上 大樹（札幌学院大学）、大坂 祐二（名寄市立大学）

報告 河野 和枝（北星学園大学）、井上 大樹（札幌学院大学）

＊参加者からの持ち込みによる報告も呼びかけます。

ラウンドテーブル⑧**総合教育棟310教室**

テーマ 「若者の移行と職業教育：ローカル/ジェンダーの視点から」

コーディネーター 植上 一希（福岡大学）、上原 慎一（北海道大学）、辻 智子（北海道大学）
富永 貴公（都留文科大学）

報告 上原 慎一（北海道大学）、池谷 美衣子（浜松学院大学）、辻 智子（北海道大学）

ラウンドテーブル⑨**総合教育棟318教室**

テーマ 「語りあう社会教育のフィールドワーク（その2）」

コーディネーター 松本 大（弘前大学）、安藤 耕己（山形大学）、藤田 美佳（奈良教育大学）
添田 祥史（福岡大学）

報告 相良 好美（東京大学大学院）、福村 真紀子（早稲田大学大学院）

ラウンドテーブル⑩**総合教育棟319教室**

テーマ 「『生活に困難を抱える人々』をめぐる取組みを考える」

コーディネーター 正木 遥香（広島大学大学院）、松田 弥花（東京大学大学院）
大村 隆史（名古屋大学大学院）

報告 松田 弥花（東京大学大学院）、大村 隆史（名古屋大学大学院）、橋田 慈子（筑波大学大学院）

新刊案内

大都市・東京の社会教育

—歴史と現在—

東京社会教育史編集委員会 [編] 小林文人 [編集代表]

編集委員会 委員長 小林文人

編集委員会事務局 齋藤真哉、井口啓太郎、石川敬史、野々村恵子

編集委員 荒井隆、上平泰博、江頭晃子、梶野光信、栗山 究、佐藤 進、高井 正、的野信一

全国的に注目されてきた東京の社会教育は、1990年代後半以降、大きく後退し、大きな危機に直面しています。本書は、「東京社会教育のあゆみ」に新しい光をあて、その歴史的な独自性を再発見し、これからの社会教育・生涯学習の可能性や展望を切り拓こうとするものです。

序 論 大都市・東京の社会教育—その歴史をどうみるか—

第1部 通史

戦後東京の社会教育行政・施設史（戦後初期より1980年代まで）

東京都の社会教育行政史（生涯教育・生涯学習施策の登場以降）

東京・多摩地域の市民活動史

第2部 行政・施設史

第1章 公民館 第2章 図書館 第3章 博物館 第4章 職員・委員

第3部 市民・学習史

第1章 女性 第2章 子ども・青年 第3章 PTA 第4章 障害者・人権

第5章 識字・基礎教育 第6章 市民活動・NPO・コミュニティ

第7章 東京社会教育の諸相

終 論 東京社会教育 10の提言

資料篇 年表、各自治体の面積・人口、施設数、職員数、社会教育費の推移データほか

2016年
9月刊行予定

A5判
500頁（予定）

予 価

本体 4,500円+税

エデル研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9

TEL 03-3234-4644 FAX 03-3234-4644 <http://www.eidell.co.jp>

近 刊

社会を創る市民の教育 — 協働によるシテイズ
—— シンシップ教育の実践
大友秀明・桐谷正信編著 社会問題解決型授業の新実践事例。A5判・並製

新 刊

社会科は「不確実性」で活性化する
—— 未来を開くコミュニケーション型授業の提案
吉永潤著 A5判・上製・一九二頁・二四〇〇円

社会形成力育成カリキュラムの研究
—— 社会科・公民科における小中高一貫の政治学習
西村公孝著 A5判・上製・五二〇頁・六五〇〇円

社会形成力育成カリキュラムの研究
—— 社会科・公民科における小中高一貫の政治学習
西村公孝著 A5判・上製・五二〇頁・六五〇〇円

アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング
唐木清志著 A5判・上製・三八四頁・四六〇〇円

社会貢献学習をその後の市民としての成長につなげる、新たな学習方法を紹介・考察。
社会形成力育成カリキュラムの刷新の理論と実践。

社会と関わる教育—その理念と実践

市民による知の創造と発展 — 身近な環境に関する
—— 市民研究の持続的展開
萩原なつ子著 A5判・上製・二九六頁・三二〇〇円

身近な課題解決を目指す「市民研究」の実践—新たな「市民知」誕生を告げる労作。

ソーシャルキャピタルと生涯学習
J・フイールド著 矢野裕俊監訳 A5判・並製・二四〇頁・二五〇〇円

ソーシャルキャピタルの拡大が人々の生涯学習と社会参加を促進することを実証。

NPO実践マネジメント入門（第2版）
パブリックリソースセンター編 A5判・並製・二七二頁・三三八一円

NPOの公共性と生涯学習のガバナンス
高橋満著 A5判・上製・二〇八頁・二八〇〇円

今日の日本における教育NPOの意義と役割を、生涯学習の展開を軸に考察。

成人教育の社会学 パワー・アート・ライフコース
高橋満著 国家政策としての社会教育から多様な主体による成人教育へ。A5判・上製

コミュニティワークの教育的実践 — 教育と福祉とを結ぶ
高橋満著 A5判・並製・二二六頁・二〇〇〇円

学習と実践を統合した住民主体の地域づくりのあり方を具体的・多角的に追究。

社会を動かす成人教育・生涯学習の展開

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
<http://www.toshindo-pub.com>

東 信 堂

TEL03-3818-5521 FAX03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp [価格税別]

現代市民社会と生涯学習論

グローバル化と市場原理への挑戦

相庭和彦 著 ◎本体価格 3500 円＋税

本書は、現代日本の市民社会に大きな影響を与えているグローバル化による労働者の低賃金化、貧困の深化と差別、地域社会の変革と教育計画、歴史認識と民主主義という問題の関連性などの問題を、生涯学習の視点から読み解いていく意欲的な試みである。



現代生涯学習と社会教育史

戦後教育を読み解く視座

相庭和彦 著 ◎本体価格 2800 円＋税

現代市民社会の教育学

ヘーゲル、マルクス、グラムシ思想の視点から

黒沢惟昭 著 ◎本体価格 4500 円＋税

アニメトウール フランスの社会教育・生涯学習の担い手たち

ジュヌヴィエーヴ・ブジョル、ジャン＝マリー・ミニヨン 著

岩橋恵子 監訳 ◎本体価格 4760 円＋税

世界の生涯学習

成人学習の促進に向けて

OECD 編著 立田慶裕 監訳

長岡智寿子、岩崎久美子、宮田緑、青山貴子 訳 ◎本体価格 3000 円＋税

近代日本の女性専門職教育

生涯教育学から見た東京女子医科大学創立者・吉岡彌生

渡邊洋子 著 ◎本体価格 5200 円＋税

ライフコース研究の技法

多様でダイナミックな人生を捉えるために

グレン・H・エルダー, Jr., ジャネット・Z・ジール 編著

本田時雄、岡林秀樹 監訳 ◎本体価格 6700 円＋税

フランスの図書館上級司書

選抜・養成における文化的再生産メカニズム

岩崎久美子 著 ◎本体価格 6800 円＋税

学習するコミュニティのガバナンス

社会教育が創る社会関係資本とシティズンシップ

佐藤智子 著 ◎本体価格 4500 円＋税

OECD 成人スキル白書

第1回国際成人力調査(PIAAC) 報告書 (OECD スキル・アウトLOOK 2013 年版)

経済協力開発機構 (OECD) 編著

矢倉美登里、稲田智子、来田誠一郎 訳 ◎本体価格 8600 円＋税

成人スキルの国際比較

OECD 国際成人力調査(PIAAC) 報告書

国立教育政策研究所 編 ◎本体価格 3800 円＋税

成人力とは何か

OECD「国際成人力調査」の背景

国立教育政策研究所内国際成人力研究会 編著 ◎本体価格 3500 円＋税

明石書店

〒101-0021

東京都千代田区外神田6-9-5

<http://www.akashi.co.jp/>

*図書目録送呈 *価格税別

TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174

メディア・リテラシー教育と出会う

小学生がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために

“小学生向けメディア・リテラシー教育に必要な体系的な知識と授業案
そしてアメリカの教育現場のリアルな声がこの一冊に！”



Part I なぜデジタル時代のメディア・リテラシーが重要なのでしょうか？

1. デジタル時代のメディア・リテラシー
2. デジタル時代のメディア・リテラシーを教える動機

Part II 小学校中学年の児童と一緒に活動する

3. 学校外の文化と授業をつなげる
4. メディアとポップカルチャーについて問いを投げかける
5. メディアをつくる
6. すべては社会とつながっている

Part III 幼稚園から小学校低学年までの児童と一緒に活動する

7. 幼い学習者のためのメディア・リテラシー

8. 作家とオーディエンス

Part IV 教師教育に取り組む

9. 実践を変える

ルネ・H・デビッド・C・M / 森本 洋介 (監訳)

上松恵理子・斎藤俊則

菅原真悟・中村純子

村上郷子・和田正人 (訳)

B5 判・222 頁

定価 本体 2,000 円＋税

ISBN 978-4-907192-38-9

発行 2016 年 3 月 30 日

HUP 弘前大学出版会

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 弘前大学附属図書館内

☎0172-39-3168 Fax0172-39-3171 <http://www.hirosaki-u.ac.jp/hupress/>